日本語話者による
中國語主題連鎖表現の習得

山　崎　直　樹

1. 序
2. ゼロ代名詞による照應
2.1. 本論で扱う言語形式
2.2. 先行研究
2.3. 本論文のねらい
3. 習得狀況
3.1. 學習歷半年
3.1.1. タスク
3.1.2. 結果
3.1.3. 現れやすい環境
3.1.4. 中國語能力との關連
3.2. 學習歷一年半
3.2.1. タスク
3.2.2. 結果
3.3. 參考：學習歷二年以上
3.3.1. タスク
3.3.2. 結果
4. 今後の課題

1. 序

この論文は，「日本語話者による中國語の習得」という大きな話題の中における，「ゼロ代名詞による主題連鎖の習得」という話題を扱う．主に以下の二點を問題とする．

i) 學習者が，中國語習熟度のそれぞれの段階において，主題連鎖をどのように習得したか．

ii) 習熟度に應じて，主題連鎖の構造に違いがあるか．

(i) に對する解答をまとめると，以下のようになる．

日本語話者にとって，主題連鎖の習得は，特に難しいとは言えないが，最初期から容易に習得しているわけでもない．日本語も同樣の構造をもつことを考えると，これは，母語の構造から，習得の目標となる言語の構造への轉移が，ストレートになされていないことを意味する．

(ii) に對する解答をまとめると，以下のようになる．

習得の初期の段階においては，同じタイプの構文（特に，同じ動詞を使う節／文）が連續するとき，この連鎖が現れやすい．習熟度が高くなるにつれ，さまざまなタイプの主題連鎖が現れる．

2. ゼロ代名詞による照應

2.1. 本論で扱う言語形式

ゼロ代名詞による照應が，中國語の文法體系や談話の構造において，大きな特徴であることは，すでに，多くの場所で論じられている（例えば，Tsao1979, Li & Thompson1979 及び 1981）．本論で扱うのは，その現象の中でも，特に，Li & Thompson1979 及び 1981 が，"topic–chain（主題連鎖）"と呼んでいる，次のようなシークエンスである．

1) 我叫××．＿是广岛大学的学生．

2) 我是广岛大学的学生，＿学了一年半左右中文了．

つまり，先行する發話ですでに言及されている項目が，繼起する節／文の中でゼロ代名詞化されるという現象があり，なおかつ，そのゼロ代名詞が，繼起する文の先頭に現れる構造を，特に問題にする（その理由は，この構造は，ゼロ代名詞による照應の各種の現れ方のうち，もっとも學習段階での導入が早く，かつ學習者の習得も早い形式であるからである）．

また，本論では，次の構造も主題連鎖に含めた．

3) 我家一共有三个人，＿（有）爸爸，妈妈，和我．

それは，次の構造と對比してのことである．

4) 我家一共有三个人．我（家）有爸爸，妈妈，和我．

主題連鎖に關して言えば，日本語にも同種の言語現象があることは，もはや，說明は不要だろう．例えば，以下のとおり．

5) あの人は，私の師です．＿主です．けれども＿私と同じ年です．＿三十四であります．

2.2. 先行研究

Jin1994 は，英語を母語とする中國語學習者のゼロ代名詞の使用狀況を調査し，概略，次のように述べている．

i) 中國語の習熟度が高くなるにつれ，ゼロ代名詞の使用頻度も增加し，なおかつ，習熟度が低い段階に比べ，ゼロ代名詞の出現する位置が多岐にわたる（主語位置に現れる，目的語位置に現れる…）．

ii) 習熟度が低い段階でゼロ代名詞の使用度が低いのは，母語である英語の構造（ゼロ代名詞の使用は，非常に限定される）を，目標言語である中國語の構造へと，轉移しているせいである．要するに，英語話者にとっては，母語の干涉が，ゼロ代名詞による照應の習得を阻害する要因になる．

Polio1995 は，英語を母語とする中國語學習者と，日本語を母語とする中國語學習者の，ゼロ代名詞の使用狀況を調査し，次のような考え方を提出している．

"中國語學習者が，初期段階において，ゼロ代名詞をあまり使用しないのは，母語からの轉移か？　日本語話者と英語話者どちらも，習熟度が低い段階では，あまり，ゼロ代名詞を使用せず，習熟するにつれ，使用頻度が增加していく．しかし，日本語話者と英語話者では，それぞれの段階での使用頻度には，統計的に有意な差はない．ゼロ代名詞による照應の習得において，第一言語から第二言語への構造の轉移が行われるなら，日本語話者にとっては，この轉移は，ゼロ代名詞による照應の習得に，有利に働くはずである（英語話者の使用頻度より多くなってしかるべき）．しかし，データはその假說を支持しない．"

これが，何を意味するかというと，少なくとも，ゼロ代名詞による照應の習得において，日本語話者は，母語から目標言語である中國語へ，構造の轉移を行っていない可能性がある，ということである．

2.3. 本論文のねらい

この論文のねらいは，次の二つである．

i) 主題連鎖の習得に際して，母語からの轉移を行わない學習者がいるこ

との確認.

ii）習熟度の違いにより，產出する主題連鎖の構造が異なることの例示.

また，資料は，書記で生成した談話に限った．これは，この方が主題連鎖が現れやすいと，考えたためである．理由の一つは，書記で生成した談話は，推敲により，より自然なシークエンスにするため，調整することが可能であること，もう一つは，Polio1995 も指摘するとおり，口頭の談話は，ポーズなどにより，ゼロ代名詞の連續使用が阻害される可能性があるからである.

3. 習得狀況

3.1. 學習歷半年

3.1.1. タスク

90 分授業・週三回・學習歷半年の學習者に，次のようなタスクを與え，書記で答えさせた.

タスクⅠ：なるべく詳しく，中國語で自己紹介をしてください.

タスクⅡ：あなたは，北京でホームステイをしています．ステイ先の家族と街を歩いていたら，小川先生に，ばったり出くわしました．小川先生を，中國語で，ステイ先の家族に，紹介してください（なるべく詳しく）.

※「小川先生」は，このクラスを擔當する中國語の教師で，學生は，彼について，公的／私的な知識をかなりもっている.

3.1.2. 結果

全二十九人の學習者のうち，一回でも主題連鎖を生成した者は，十五人，一度も使わなかった者は，十四人である．ほぼ半數の學習者が，主題連鎖をまったく使わなかったことは，注目されてよい.

注意したいのは，これは，「使えない」ということと，必ずしも同義ではないことである．ただ，「使わない」にしろ，「使えない」にしろ，日本語の構造をストレートに中國語に轉移することを阻む，何かしらの原因があることは，確かである．この點で，Polio1995 の結果と一致する.

主題連鎖を使用している例は，以下のとおり．なお，ここでは，主題連鎖を

使うか使わないかが重要なので，適正な使用か否かは問題にしていない．

6) 我介绍一下，这是小川老师，＿是广岛大学的中文老师．

7) 这位是我的老师，＿叫小川先生．他是广岛大学的老师．

8) 我叫××．＿是广岛大学的学生．＿是综合科学系的学生．

9) … 我是广岛大学的学生．＿今年一年期*．*："一年级"のまちがい

10) 我叫××．我的生日八月二十七号．＿今年十九岁．

11) … 我家有四口人．＿爸爸，妈妈，妹妹和我．

主題連鎖を使用しない例は，以下のとおり．

12) 这位是小川老师．他是广岛大学的老师．他是我的中文的老师．

13) 我叫××．我是日本人．我是广岛大学的学生．我是文学系的学生．我是一年级．我有一个妹妹．

14) 我叫××．我是大学的学生．我是一年级．我是十八岁．我有一个哥哥．

15) … 我家有四口人．我有爸爸，妈妈，妹妹．

3.1.3. 現れやすい環境

このデータにおいて，主題連鎖が現れる環境には，一定の統語的傾向がある．

文の先頭位置にゼロ代名詞が現れている個所は十八あったが，そのうち，十個所は，次のように，動詞"是"を使った節／文が連續する個所である．

16) 这是小川老师，＿是广岛大学的中文老师．

殘りの個所は，概略，次のような動詞の節／文の組み合わせである．

17) 我叫××．＿是广岛大学的学生．

18) 我姓××，＿叫××．

19) 我叫××．我的生日八月二十七号．＿今年十九岁．

20) 我家有四口人．＿爸爸，妈妈，妹妹和我．

最後の例を別にすれば，殘りの例（十八例中の十七例）は，すべて，「AはBである」という構文か，きわめてそれに類似した構造をもつ構文の連續する個所である．ここに，一定の統語的傾向が存在する．すなわち，同じタイプの構文が連續するときは，主題連鎖が現れやすい．

逆に，次のように，異なるタイプの構文が連續するときは，ただの一例も主題連鎖が見られなかった．

21）这是小川老师．他（教）给我中文．小川老师好*四川饭店．（*:"喜欢"の意味らしい）

22）他是广岛大学的老师．他会中文．

23）我家在山口．我家有四口人．

24）我是广岛大学的学生．我现在住在学生宿舍．

25）我是一年级．我想去中国．

26）我是广岛大学的学生．我住在广岛．我跟父母住在一起．明年我想去中国．

このデータについて，特記しておきたい事實がある．それは，この（21–26）のデータの提供者は，先に述べた，「現れやすい環境」下では，みな例外なく，主題連鎖を使用している，ということである．

3.1.4. 中國語能力との關連

被驗者を，主題連鎖の使用不使用で，二つの集團にわけ，それぞれの，その時點での中國語の能力（ただし，主題連鎖の使用不使用に關わる部分を除いた能力）を比較してみた．その結果，この二つの集團相互の間では，彼らに對して行った筆記試驗の點數の平均點に，ほとんど違いがなく，T檢定を行った結果，統計的に有意な傾向すらも見られなかった（$p<0.05$）[1]．つまり，主題連鎖の使用不使用は，この時點での中國語の能力とは，關係がないことになる．

3.2. 學習歷一年半

3.2.1. タスク

§3.1 で調査した學習者の一部が，一年半の學習を經た時點で，概略，次の場面設定をして，自己紹介の談話を生成させ，筆記で答えさせた．

あなたは，留學生として中國にやってきました．レセプションのパーティーの席上で自己紹介をしてください．

3.2.2. 結果

データ提供者十四人中（この中には，§3.1 のデータで，主題連鎖を使用していた者と，使用していない者とが含まれている），十二人が，主題連鎖を使用した．し

かも，異なる構文の連續する環境での使用も見られた．例えば，以下のとおり．

27) 我在广岛大学念书．＿学习中文已经一年半了．但是，＿还说不好*．
(*："说得不好"の意味らしい)

28) 我在广岛大学学习中文．＿今年二年级．我很喜欢学中文，但是＿水平还很低．

また，次のようなシークエンスが見られる．

29) 我叫××．＿在广岛大学念书．＿专业是中文．

§3.1 のデータ（學習歴半年の時點のデータ）では，このような談話の中では，例外なく，"我的专业是中文"のような構造の文が用いられていた．

以上の事實は，Polio1995 の，「習熟度が高くなると，ゼロ代名詞の使用が增える」という主張を裏づける．

また，次のように文法的知識の不確かな學習者も，主題連鎖を生成していたことは注目に値する．

30) 我叫××，今年十九岁．我的生日是一月三号．我老家在岩国，有父亲，母亲，一个妹妹和我，一共四个人．我是广岛大学的学生，专业是中文．我想用中国话说跟中国人*．谢谢．（*：「中國語で，中國人と話がしたい」の意）

3.3. 參考：學習歴二年以上

3.3.1. タスク

次に，參考のために擧げるデータは，學習歴二年以上の學習者のものである（ただし，學習年數は，二年以上であるものの，週あたりの學習時間は少なく，中國語の能力は，「學習歴二年以上」というキャリアから豫想されるほどではない）．なお，被驗者となった學習者は，§3.1，§3.2 のデータの提供者とは異なる．

次の二つのタスクを與えた．

タスクA：四コマ漫畫を見せ，中國語で，その概略を說明することを要求した（「セリフの翻譯をせよ」ではない）．

漫畫の內容は，以下のとおり．

若い女性が，レストランで，野ウサギのシチューに舌鼓をうっている．

彼女が歸宅すると，部屋には，彼女のペットであるウサギがいて，彼女を見る．その女性は，思わず目をそらして，「目を合わせられない．浮氣して歸った夫って，こんな氣分なのかしら」とつぶやく．

タスクB：あなた自身の架空の傳記を創作し，第三者が書いたという形式で記述せよ．

3.3.2. 結果

データを見ていただければわかるが，被驗者（四名）の中には，あまり中國語の能力の高くない者もいる（特に文法・語彙の知識の不足）．にもかかわらず，主題連鎖の出現率は，非常に高い．特に，繼起するできごとを記述する場合に，よく用いられる．以下のとおり．

31）她吃完后，回家了．

32）厨师把一个菜拿出来，说："这个... "

33）她心爱的兔在屋子里，看着她．

34）她初次喝那样的汤，觉得很好喝．

35）一个女人跟她的朋友去吃饭，吃了炖野兔肉．

36）他在那个公司工作了三年，但是觉得没有意思，辞去公司员的职务．

37）那个时候他是三十岁，还没有夫人．

38）今年他六十岁了，在中国过幸福的日子．

39）那个时候日本是长寿国，不过没有土地，

40）好一会儿，父母去看他的样子，吓了一跳．

41）而且，他喜欢学问．七岁的时候，已经背得四书五经上来了．并且看看NHK的外国语讲座学会五个外国语了．

4. 今後の課題

もっとも大きな未解決の問題は，日本語話者は，なぜ，習得の初期段階において，日本語にも同様に存在する主題連鎖の構造を，母語から目標言語へ轉移させないか，ということである．

Polio1995 では，ほぼすべての日本語話者の學習者に共通の基盤として，英語が既習であることを擧げ，その影響を示唆している．答は，そのあたりにあるのかもしれないが，これを證明する客觀的な根據は，まだない．

もうひとつの問題は，長年，中國語と慣れ親しむほど，主題連鎖を使いこなせるようになるらしいが，文法的知識の確實さと主題連鎖の習得は，あまり，相關關係がないように見えることである（§3.3 のデータをごらんいただきたい）．これも，いずれ，客觀的に檢證しなければならない．

注

(1) 統計處理は，彌勒の里日本語學校講師・森川邦美氏に，全面的に助けていただいた．しかし，もちろん，これに付隨する諸々の責任は，全面的に筆者が負う．

参考文献

Tsao, Feng-fu. 1979. *A Functional study of topic in Chinese: The first step towards discourse analysis*. Taipei : Student Book.

Givón, Talmy. (ed.) 1979. *Syntax and semantics, Vol. 12*, New York: Academic Press.

Jin, H. 1994. Topic-prominence and subject-prominence in L2 acquisition : Evidence of English-to-Chinese typological transfer. *Language Learning, 44*, 101-22.

Li, Charles N. and Sandra A. Thompson. 1979. Third-person pronoun and zero anaphora in Chinese discourse. In Givón (1979), 311-55.

____. 1981. *Mandarin Chinese : A functional reference grammar*. Berkley : University of California Press.

Polio, Charlene. 1995. Acquring nothing?: The use of zero pronouns by nonnative speakers of Chinese and the implications for the acquisition of nominal reference. *Studies in second language acquisition, 17*, 353-77.

謝辭

以下の方々に，いろいろご教示いただいた．ここに記して感謝したい（敬稱略）．とりわけ，森川氏には統計處理をしていただいたこと，柳町氏には，素稿を讀んでいただき，詳細なコメントをいただいたことを，特記したい．ただし，もちろん，本稿の誤謬その他に對する責任は，すべて，筆者に歸する．

森川邦美，柳町智治，Tianwei Xie，Wendan Li，Hui Hua，山崎深雪．